

■■メールマガジン「静岡県防災」第41号■■

『北伊豆地震と活断層』

○北伊豆地震

昭和5年11月26日の午前4時02分に北伊豆地震が起こりました。

地震の大きさはマグニチュード7.3 震源は丹那盆地の南方数キロメートルの地下0～5キロメートルで、震央付近では震度6の直下型の大地震でした。

静岡県では死者272名（家屋の倒壊が主因）、全壊家屋2,165戸と、大正12年の関東大震災（375人／2,298戸）に次ぐ大きな被害をもたらしました。

地震は岩盤がずれることで起きます。このずれた部分を「断層」といいます。このうち、数十万年前以降に繰り返し活動した痕跡があり、将来も地震を起こす可能性のある断層のことを、「活断層」といいます。

○活断層データベース

現在、存在が確認できている活断層については、「産業技術総合研究所」の活断層データベースで確認することが出来ます。

南海トラフ地震のような海溝型（プレート境界型）の地震は数百年に一回の周期で起きますが、北伊豆地震のような内陸型（活断層型）の地震は数千年に一度起こると言われています。

内陸型の地震は海溝型と比較すると頻度は低いですが、浅い所で岩盤が壊れるため、我々の生活する地上での被害は大きくなる可能性があります。

また、地表まで岩盤が割れた場合には、そのずれによって建物等に大きな影響が出る場合もあります。

山陽新幹線の新神戸駅は、活断層が動いた場合に備え、基礎や構造を特別に考慮して設計したそうです。

ご家庭においては、活断層の存在を知っておくとともに、海溝型地震への備えも含めて、日ごろから建物の耐震補強や家具の固定といった対策を行っていただくことが重要です。

参考 URL リンク 「活断層データベース」 <https://gbank.gsj.jp/activefault/>

○「北伊豆地震」企画展

11月24日（金）から12月8日（金）まで、東部総合庁舎本館2階（沼津市高島本町）の東部地域局前で、「北伊豆地震」企画展を開催しますので、是非、ご覧ください。

（土日を除く開館時間に見学可）